

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

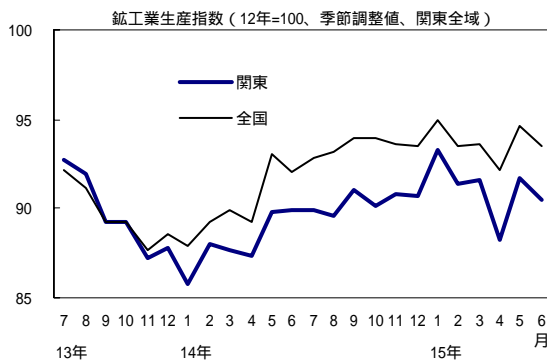
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 5 月）	今回（平成 15 年 8 月）	
鉱工業生産	緩やかに増加	おおむね横ばい	
住宅建設	緩やかに減少	増加	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。（関東全域）

一般機械は、4月に携帯電話の新機種投入に向けた切り替え時期で携帯電話向けの半導体製造装置が減少したことが影響し、前期比で再び減少に転じた。化学は、内需ではポリスチレン等の値上げに伴う駆け込み需要の反動減、外需ではSARSの影響により中国向けの輸出の減少や生産調整の動きがみられ、減少に転じた。輸送機械は、トラックが排ガス規制による買い替え需要で好調だったものの、乗用車が内需ではグリーン税制の駆け込み需要の反動減、国内新車効果の一巡、外需では北米向け輸出の減速を受け、2期連続での減少となった。情報通信機械は、4月に携帯電話の新機種投入に向けた切り替え時期で携帯電話向けの部品が減少したことが影響し、前期比でやや減少した。電気機械は、蓄電池などスポット的な受注生産が前期と比べると減少した。



（備考）平成 15 年 6 月の関東は速報値。

地域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

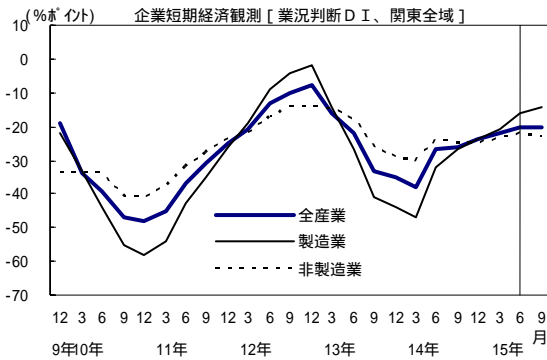
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
一般機械	13.8	3.5	3.1	1.0	4.4
化学	13.7	4.5	3.2	2.6	2.9
輸送機械	11.3	1.5	4.6	1.8	19.0
情報通信機械	8.6	7.0	1.8	2.3	4.0
電気機械	7.9	1.4	2.2	3.1	5.7
鉱工業	100.0	1.7	2.1	1.2	2.2

（備考）1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

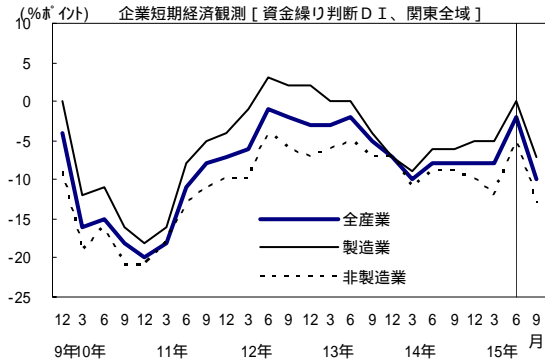
2. 4～6月期は速報値。

3. 4～6月期の化学の生産、出荷については、4月、5月
確報値の平均より算出。在庫については、5月確報値。

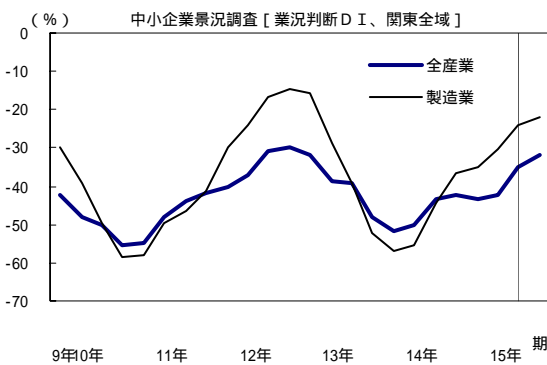
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年9月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年9月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「印刷物のホームページ用データ加工や、印刷物の保存用データ加工の件数、売上が増加しており、印刷の受注量や売上の落ち込み分をカバーしている (出版・印刷・同関連産業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

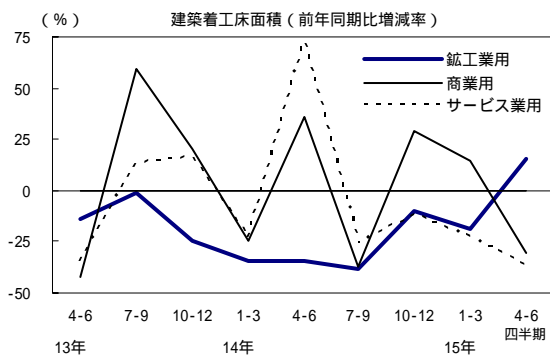
(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績とほぼ同水準になっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査、関東全域)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	3.3(1.8)	1.8(0.4)
製造業	13.9(1.7)	4.0(1.5)
非製造業	2.1(2.2)	2.4(0.3)

(備考) ()は前回 (3月) 調査比修正率。



(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

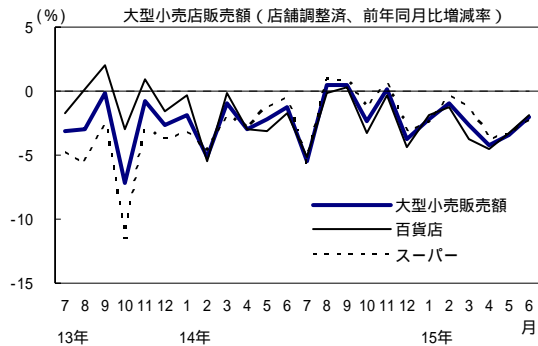
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、4月は、気温が低く推移したことや週末の降雨等天候不順により春物・初夏物衣料の動きが鈍く、身の回り品も落ち込んだ。5月は、衣料品では紳士服が前年を上回るなど動きを見せ、身の回り品も健闘したが、全体としては中旬以降の天候不順により動きが鈍くなった。6月は、衣料品に動きがみられ、身の回り品が4か月ぶりに前年を上回るなど、前月よりは持ち直した。

スーパーは、衣料品が6月にはセール効果により前年を上回るなど動きがみられたものの、好調だった主力の飲食料品が4月は発泡酒の増税前の駆け込み需要で前年を上回ったものの、5月以降はその反動と天候不順などにより前年を下回った。

景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

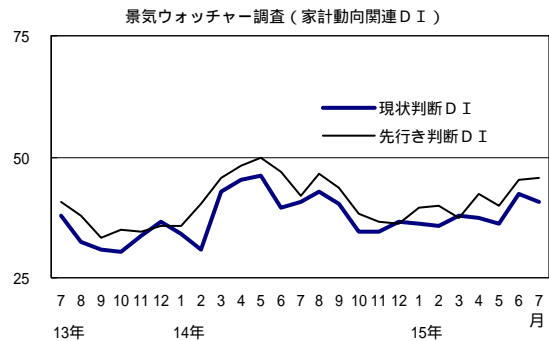
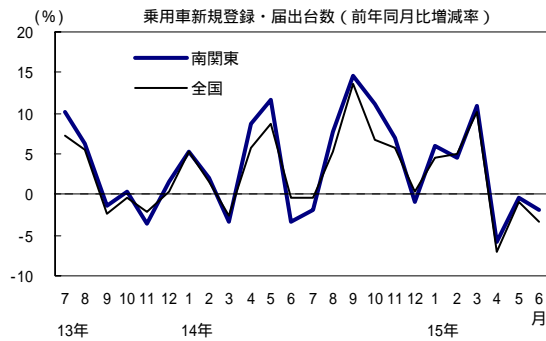
「来客数は減少しているものの、商品単価は前年を上回っており、来店目的、購入商品を明確に決めて買物をする客が増加している。ただし、昨年はワールドカップの影響があったことを勘案すると、まだ本格的な回復基調とは言えない（百貨店）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月
大型小売店	1.8	2.2	2.0	3.2
百貨店	2.1	2.8	2.4	3.2
スーパー	1.6	1.5	1.5	3.2
乗用車	6.4	5.5	7.8	2.5
景気ウォッチャー	41.2	35.2	36.6	38.6

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。15年4-6月は速報値。

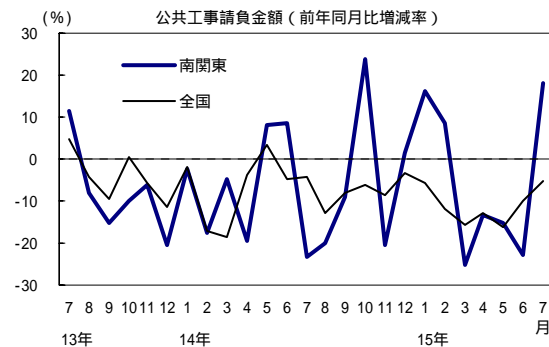
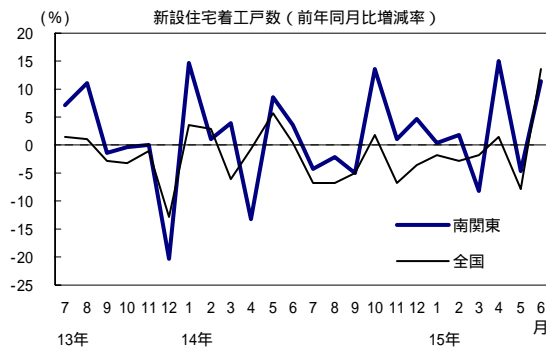
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

分譲、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

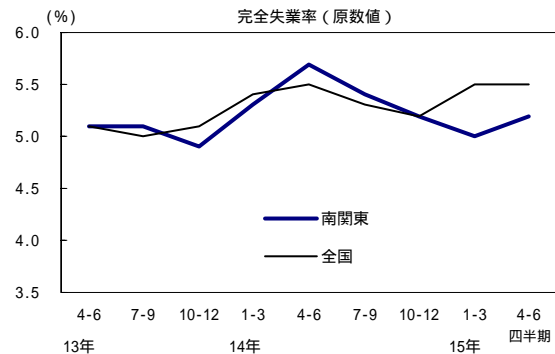
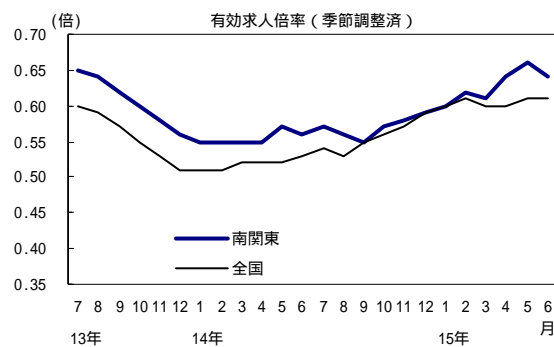


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月調査）[雇用関連（現状判断）]

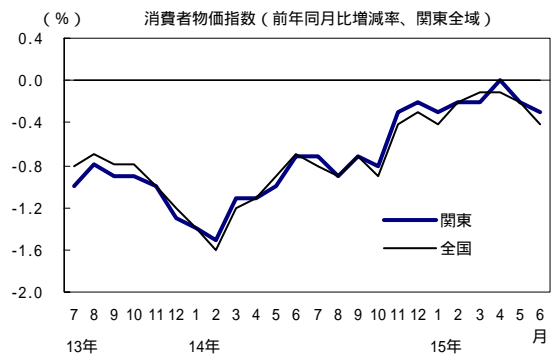
「6月同様、長期の派遣需要に加え、将来は派遣先企業の直接雇用となる派遣紹介や直接雇用が増加している（人材派遣会社）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月	15年7月
倒産件数 (前年比)	1,439 7.6	1,406 9.5	1,382 13.0	1,294 11.8	411 19.4
負債総額 (前年比)	13,701 28.1	16,126 36.8	19,914 15.2	8,523 40.0	2,467 38.6



景気ウォッチャー調査（7月調査）[合計DI（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・3か月前と比較すると、販売量が増加している。販売価格についても、高額物件の方が売れている。7月は、5,000～6,000万円台の物件の購入もある（住宅販売会社）。

<先行き>

- ・DVD、地上デジタルテレビ、液晶テレビ等のビジュアル関連商品と、リサイクル法施行前のパソコン本体の買換え需要に期待している（家電量販店）。

